

2022年 3月 16日

三井化学株式会社

三井化学、フルステム社と幹細胞高密度大量培養に使用する 高機能不織布の共同開発を開始

三井化学株式会社（所在：東京都港区、社長：橋本修）は、株式会社フルステム（所在：沖縄県那覇市、社長：千葉俊明）と幹細胞の高密度大量培養に向けた高機能不織布の共同開発を開始しました。

フルステム社が開発した幹細胞高密度大量培養装置「Achieva-CS」は、幹細胞培養の足場材として不織布を用いることで幹細胞の大量培養を実現しています。両社は、三井化学が培った高分子材料や不織布成形の知見とフルステム社が有する幹細胞の高密度大量培養技術・装置の知見を合わせることで、次世代の幹細胞大量培養プラットフォーム技術を共同で開発し、再生医療の発展に貢献して参ります。

なお、フルステム社の高密度大量培養の取組みは、3月19日 第21回日本再生医療学会総会^{※1}にて発表いたします。



幹細胞高密度大量培養装置「Achieva-CS」

◆フルステム社について <http://fullstem.jp/index.html>

フルステム社は、脳外科医であり再生医療認定医である千葉俊明氏により2016年8月に設立されました。該社は、独自技術である高密度三次元大量培養法と回収法を実装した幹細胞高密度大量培養装置「Achieva-CS」を開発し、「誰にとっても安全で使いやすく」をコンセプトに幹細胞大量培養技術の実用化を目指しています。

◆「Achieva-CS」の特徴 <http://fullstem.jp/posts/product5.html>

「Achieva-CS」は、幹細胞培養の足場として不織布を用いることで培養面積の高密度・省スペース化が可能となり、低コストかつ生体内環境に近い状態で幹細胞の大量培養を実現しました。さらに、フルステム社の特許技術により、従来は不可能であった不織布に埋没する幹細胞の効率的な回収に成功した世界初の三次元自動大量培養装置です。

◆三井化学の強み

三井化学は、衛生材料分野や産業材分野に、スパンボンド不織布、メルトブローン不織布を長年供給しています。これまでの不織布開発で培った材料技術、成形技術を活かして幹細胞の高密度大量培養に適した高機能不織布をフルステム社と共同で開発します。

■両社の概要

	株式会社フルステム	三井化学株式会社
設立	2016年8月	1997年10月
所在地	沖縄県那覇市天久 2-1-15	東京都港区東新橋 1-5-2
資本金	45百万円	125,331百万円
事業内容	幹細胞高密度大量培養技術の開発と事業化	モビリティ事業、ヘルスケア事業、フード&パッケージング事業、次世代事業、基盤素材事業
従業員数	6名	17,979名（連結）

株式会社フルステムリリース：<http://fullstem.jp/posts/news13.html>

ご参考

※1 <https://www.congre.co.jp/jsrm2022/index.html>

以上

<ニュースリリースに関するお問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部

(TEL : 03-6253-2100、

お問い合わせフォーム：https://form.mitsuichemicals.com/corporate/cc_pr_csr_ja)